

～「垂井町立垂井小学校PTA」のご発表に対する質問事項～

**○キーワード「できる人が、できる時に、できることを」について**

- ・このキーワードに対して、どのくらいの方が協力的でしょうか。また、PTA本部以外の役員が多いですが、親さんの負担にはなっていませんか。  
=>数値で把握はできておりません。PTA本部以外の役員は、特定の方に偏らないようになっており（6年間で1回ないし2回）選出された時は引き受けていただけていますので、多くの方が協力的と認識しております。保護者の負担にならないように、軽減することも検討しています。
- ・イベントの参加人数の多さには驚き、多くの協力を得られている様子が伝わってきます。しかし保護者も忙しく個々の温度差もあり、なかなか難しいことも多いかと思いますが、参加や協力を促すためにどのような工夫をされてみえますか。  
=>垂井町は祭事（垂井祭り・商工会イベント）が盛んに行われており、親の繋がりが多いため、自然と行事にも協力的に参加していただけていると思います。親の繋がりで声掛けすることで、参加や協力をお願いしています。
- ・「できる時に」というのは忙しい保護者にとってはありがたい言葉ですが、それを示したならば、それ相応の機会を提示する必要があると考えます。貴PTAでは、どれだけ保護者が参加できる場を設定しているのか教えていただきたいです。  
=>運動会の準備や片付け、奉仕作業、校内環境整備、資源回収など多くの行事に参加をお願いし、参加できる時に参加をお願いしています。
- ・とても良いキーワードだと思いますが、無理のない（強制ではない）範囲で活動ができていのでしょうか。活動の時間を確保することと、負担増加にならないような工夫は何かしていますか。  
=>すべての活動が強制ではありませんし、各行事にPTA以外にボランティア（中学生・地域住民）をお願いすることで負担が大きくなるようにしています。
- ・「できる人が、できる時に、できることをやる」となると、やる人は限られるのでは…？  
=>やる人は、限られているかもしれませんが。「できる時に・・・」とお願いすることや保護者が誘い合って参加していただくことで少しでも多くの方に参加・協力していただけるように努力しています。実際に、各行事に多くの保護者の方に協力していただいています。
- ・このテーマは学校(PTA)活動のみならず、地域活動においても共感できる言葉だと思います。保護者及び地域全体にどのように呼びかけているのか知りたいです。  
=>垂井町は祭事（垂井祭り・商工会イベント）が盛んに行われており、親の繋がりと、地域住民の繋がりが多いため、そのコミュニケーションの中で呼びかけを行っています。

## OPTAの組織、「PTCの会」について

- ・PTCは、PTAとは独立した組織なのでしょうか。それとも本部の下にPTCの会があるのでしょうか。  
=>「PTCの会」は、特別委員会としてPTA組織内の一つです。「PTCの会」会長はPTA副会長が兼務です。
- ・「PTCの会（旧おやじの会）は父親だけではなく…」とありますが、具体的に会員はどのような組織になっているのか。PTA会員でもPTCの会に入っていない方もいるのでしょうか。  
=>1年生から6年生の保護者全員、子供たち、先生が会員です。よって、PTA会員は、全員PTCの会の会員となります。ただし、参加についての強制はしていません。
- ・「PTC」はどのような活動をされているのでしょうか？代表者や活動場所、時間の告知などはされているのでしょうか？実際、どれくらいの方が参加されていますか？みんなが参加するためにどのような工夫をされているか、具体的な行動を教えてくださいませんか？運営上の問題点など、どの様に克服しましたか？  
=>学校活動のお手伝い運動会の準備や片付け、奉仕作業時の校内修理や力仕事、子どもの安全や防犯活動・環境整備を行っています。また、日頃顔なじみの少ない保護者同士のコミュニケーションの場として、交流会（懇親会）を行っています。代表者（会長）は、PTAの副会長が兼任しています。告知は、活動ごとに児童を通じて書面を全校配布しています。その他には保護者同士の誘い合いで参加をお願いしています。誘われて一度参加することで次回以降も参加していただけるようになります。参加人数は、活動により異なりますが、20人～40人くらいです。
- ・前身の会の名称が「おやじの会」と面白い名前ですが、どういう意味なのでしょうか。また、どうやって始めていったのか、関係をつくっていったのか知りたいです。  
=>元々PTA活動にはどうしても母親が参加することが多かったのですが、父親も何か子どもたちのためにできないか、女性では力仕事（運動会のテント建て・運動場の整備等）は大変なこともあり、「おやじの会」を発足し、父親が参加しやすい場を作ることをきっかけに始めました。
- ・会員登録制であった「おやじの会」時代、会員はやはり父親限定だったのでしょうか。この制度が「全員参加型」となり、会員対象が「PTC」になったいきさつとして、今多くのPTAが抱えている「なり手不足」が関係しているのでしょうか。  
=>「おやじの会」時代は、登録制で父親のみの参加でした。全員参加のPTCの会になった背景には、なり手不足というよりも、親同士のつながり、子どもたち、先生とのつながりをもつ意味で全員参加型の会になりました。全員参加型とすることで、PTA活動参加へのきっかけの場や日頃顔なじみのないお父さん・お母さんのコミュニケーションの場となればと考えています。

- ・ 全員参加型とのことですが、反対意見はありませんか。入らない方もおみえになるのでしょうか。あった場合はどのように対応されましたか。また、参加費は無料でしょうか。

⇒ 全員が会員となりますが、キーワードにありますように「できる人が、できる時に、できることを」を目的としておりますので、自由参加で参加の義務は全くありません。会費・会則もありません。「できる人が、できる時に、できることを」とすることで参加し易い環境になればと考えています。反対意見等はありませんでした。
- ・ P T Cの企画については保護者の方にボランティアを募られるのでしょうか。どのようにまとめられているのでしょうか。リーダーがいらっしゃるのでしょうか。会の中に、保護者、先生方、子どもの会長がそれぞれいるのでしょうか。

⇒ P T Cの会には役員は置いていません。全体の会長はP T Aの副会長が兼任しており、先生、子どもたち、それぞれの会長はいません。会長が児童を通じて書面を全校配布、回収して取り纏めています。
- ・ 人手が必要なテント張りや資源回収の時などは、何割くらいの方が参加してくれますか。

⇒ テント張りでは、2割ほどの方に参加していただいています。資源回収は、各地区での作業担当もあり、また、担当する委員会もありますので、20名ほどの参加です。
- ・ 父親が行事に参加することが少ないことが課題です。どうしたらたくさんのお父さんの参加を得られるか、良いアイデアがあれば教えてください。

⇒ 垂井小学校においては、父親同士のつながり（垂井祭り・商工会イベント等でのつながり）でコミュニケーションを多く取れていることが、参加人数の多さにつながっていると思います。
- ・ 委員会やP T Cの会など組織が多くあることを感じますが、保護者や地区の方から何か苦情などはありませんか。

⇒ 特に苦情等はありませんが、各委員会に任せきりではなく、P T A本部がフォロー、また委員会同士でフォローしています。また、各委員会からも意見を挙げていただき、本部で改善しています。
- ・ たくさんの委員会がありますが、本部役員・特別委員会以外の委員はP T A会員の何割くらいですか。少子化が進む中、役員を選出は大変ではないでしょうか。今後の児童数の変動に対応できているのでしょうか？

⇒ 本部役員、特別委員会以外の役員はP T A会員の約2割です。各学級（1学年2クラス）から5名選出していただいています。選出方法は、事前に立候補も受け付け、立候補者で充足されなかった人数を、無記名投票にて上位から選出します。投票用紙に過去の役員実績を記載しており回数が少ない方から選出されることが多いです。そのため、小学校6年間で1回は役員に選出されます。保護者の理解もあり、ほとんどの方が引き受けてくださいます。今のところ、垂井小学校は幸いにも児童数の変動は無い状況です。しかし、児童数の減少への対応、ま

た、保護者の方への負担軽減のために委員会の「在り方」について今後検討が必要であると考えています。

- ・ P T A本部役員及び各委員会の役員選考は、どのような方法で行っていますか。各家庭にノルマとして担ってもらっていますか？工夫している点があれば教えてください。

⇒本部役員は、指名委員会を構成し役員候補者を推薦します。その後、運営委員会にて承認を得ます。その役員候補者は、立候補および前年度役員の推薦となります。任期が2年あり、1年で、半数が入れ替わります。今後仕事を一緒に行うことを考慮し、前年度役員が推薦します。各委員会の役員については、常任委員の選出後（各学級にて投票もしくは立候補）、合同委員会を開き、委員会ごとに立候補→話し合い→抽選にて選出しています。各家庭にノルマはありませんが、本部経験者及び委員長経験者等が再度役員にならないような除外規定は設けてあります。

### ○「防災意識の向上」の取り組みについて

- ・ 防災についての取り組みは、誰が中心になって進めているのか知りたいです。  
⇒ P T A本部役員と学校の先生方で計画し、P T Cの会の皆様などたくさんのご協力を得て実行できています。保護者の中には、消防団などを経験し専門的な知識がある方もみえ、大変助かっております。
- ・ 非常食の備蓄について「5年で全児童分が完備できる」とありますが、備蓄食の内容と何日分（何食分）の備蓄でしょうか。  
⇒現状、取り組み始めた段階であり、まだ全児童分は完備できておりません。お腹を満たすことと必要最低限のカロリーを摂取することを考えて、予算もありますが、最低でも3日分の備蓄を予定しています。理想としては、1週間分の備蓄ができればと考えております。
- ・ 非常食を選ぶ基準は何ですか。5年の期限の理由はありますか。リスト等ありますか。  
⇒日常生活で食べ慣れた食料が理想ではありますが、災害後3日間はライフラインがストップすることが多いため、調理せずに食べられる缶詰や栄養補助食品、ライフラインが復旧した後に温めて食べられるアルファ米を選んでいきます。一般的な非常食の保存期間は、3～5年ほどですので児童数と費用を考慮し5年としました。取り組み始めでまだリストはありませんが、作成の必要はあると考えます。
- ・ 非常食や簡易テントは、どのような方法で管理されているのでしょうか。どこに保管し、誰が管理されているのですか。  
⇒体育器具庫に保管し、P T Aと学校で管理しています。運動会や各行事でテントを使用する時に問題がないか確認を行っています。

- 平成30年から簡易テントの購入を始めてみえますが、どのくらいの数が必要でしょうか。また、保管場所は毎年のPTAが把握しているのでしょうか。

⇒必要数は特に設定していません。テントの数は、以前からあるスタンダードな学校用テントでも足りていると思います。災害時に、持ち運べて、短時間・少人数で立てられる簡易テントを予算に余裕がある時に増やしていきたいと考えています。保管場所は、体育器具庫で保管させていただいており、PTAでは各行事で使用する時に確認しています。
- 毎年簡易テントを2張り購入されたり、ローリングストックで非常食を購入されていますが、そのための予算はどれくらいか知りたいです（費用の出どころも）

⇒予算は、毎年PTA会員の皆様から集めさせていただいていますPTA会費の中から、防災費として毎年設定しています。決まった金額では無く、その年のPTA活動費により変動します。
- 購入や備蓄のための資金はどこから捻出されているのでしょうか。資金調達のために独自に行っていることがあればご教授ください。（我PTAでは、年に2回の資源リサイクル活動も今年度はコロナ禍で収入が伸ばせません）

⇒予算は、毎年PTA会員の皆様から集めさせていただいていますPTA会費の中から、防災費として毎年設定しています。資金調達としては、特に行っていません。資源回収は毎年実施しておりますが、防災費には使用していません。垂井小学校も今年度はコロナ禍で資源回収が実施できていません。
- 費用がかかることを、PTA会員の皆さんにすんなり理解していただけましたか？

⇒毎年、予算案や活動計画は総会にて承認を得ており、使用先についても説明しています。特に今年度は、例年実施している各委員会の行事等も実施できないため、そのための予算を感染症対策費として使用させていただいていますが、事前に案内をしていますが、大きな苦情もありませんので、ご理解いただいていると考えています。
- 非常食の他に、水や簡易トイレなど他の防災グッズについては備蓄を行っていますか。

⇒防災についての取り組みを始めたところであり、現状、PTAとして防災グッズの備蓄は行っていません。
- 非常食やテントの購入について、行政機関担当課と連携されておれば、どのようにされているか教えてください。（行政からの補助金等）

⇒行政機関担当課と連携はしておらず、行政からの補助金等もございません。
- おそらく学校は避難所にも指定されていると思いますが、有事の際には地域住民にも配給されるのでしょうか。行政との対応や連携はどのようにしていますか？

⇒難しい問題ではありますが、PTA会費から準備していることもあり、名目上は垂井小学校関係者と、考えています。しかし、緊急事態では行政等とも連携し、臨機応変に活用していただければと考えます。

- ・防災訓練等での学校と地域との連携のあり方について、工夫されている点があれば教えてください。  
=>PTAとしては今のところありませんが、今年度であれば、防災士が行っている講義に参加し、他校の実施内容を紹介していただいたり、その中で参考になったことがあれば学校に提案してみたりなどの活動は行っています。
- ・非常食の体験とありましたが、どのような体験と一緒にされたのか知りたいです。  
=>非常食は、必要数の備蓄が完了した後にローリングストックを予定しております。現在は、取り組み始めた段階であり、必要数の完備が完了しておりませんので、まだ体験は行っておりません。今後、親子で体験できるような活動にしていきたいと考えています。
- ・運動会の時のテント張りの体験について、何年生の児童が何人で体験し、誰が教えていますか。  
=>高学年の児童が行っています。運動会などの片付けのタイミングで大人と一緒に教えながら行うことで、テントの扱い方を学んでいます。
- ・簡易テントの購入を選択した理由（必要性）について教えてください。  
=>いざというときに役立つもの、また、必要になってくるものを考えた中で決めました。テントは非常時にはもちろん、日常でも活用できることから、有効に使用してもらえると考え購入させていただきました。

## ○「情報モラル」の取り組みについて

- ・スマートフォン等の普及、大規模災害の講習会後の皆さんの反応、意識の変化は感じられましたか。受講した児童の感想はどうでしたか。  
=>受講した児童からは、「スマホは、便利だけど、使い方を間違えたら怖いと思った。気を付けたい。」との感想がありました。スマホの危険について認識し注意しなければならないという意識が生まれていました。また、講師の方の話も分かりやすく高評価を得ています。
- ・情報モラルの講師はどういった方を呼ばれたのか、どこへ要望すれば来てもらえるのか教えてほしいです。  
=>講師には、おもに垂井町交通安全指導員の方をお願いしています。ネットいじめ対応アドバイザー・生涯学習コーディネーターとしてもご活躍され、様々な学校で講師をされています。通学時に横断歩道などにも立たれており、子どもたちも、よく知っている方なので、とても身近に感じています。
- ・講話は定期的に行っているのでしょうか。また、有害サイトから守る設定方法も講話に含まれているのでしょうか。  
=>講話は、1年に1回、成人教育委員会の家庭教育学級の1つとして行っています。最初に保護者と子どもたちが一緒に話を聞き、実際に小学生の身に起きた事件や対策を具体的に話していただきます。その後、保護者のみ残っていただき、より細かく深い内容で講話をしていただきます。有害サイトから守る設定方法などもその時に教えていただいています。

- ・情報モラル教室は、授業参観などの時に行ってみえるのですか。親子で参加なら1,2,3年生も参加があるとよいと思いました。(低年齢化を考えると)  
=>情報モラル教室は、授業参観とは別日で、土曜授業の日に成人教育委員会の家庭教育学級の1つとして行っています。低年齢化を考えますと、今後低学年の参加も考えたいと思います。場合によっては、1～3年と4～6年で分けて、行うことが必要かもしれません。
- ・スマホを持つ小学生が増えていますが、子ども達が有効活用している事例があれば教えてください。また、保護者が小学生にスマホを持たせる理由について、アンケート結果などがあれば教えてください。  
=>自宅の固定電話がないご家庭において、外出先から家にいる子供への連絡のために携帯を持たせているご家庭もあるようです。連絡用のみで使用されるかというところでない部分もあり、動画を見たりすることはあるようです。家庭教育学級の内容についてのアンケートは実施していますが、スマホを持たせる理由についてのアンケートは実施していません。
- ・垂井小学校でのスマホ所有率、インターネット使用率はどうですか。  
=>スマホ所有率やインターネット使用率は、アンケートを実施していませんのでわかりません。今後、アンケートを実施したいと思います。
- ・自宅でのネットゲームについて、PTAとして何か取り組まれていることはありますか。  
ルールを作るとありましたが、どんなルールか。また、ルールを守らせるために工夫していることがあれば教えてください。  
=>町PTAとして、7月第1日曜日はノーゲームデーとして、町全体で取り組んでいます。
- ・ゲームの誘惑も多く、いじめや課金の問題もあります。良い対処法があれば教えてください。  
=>みまもり設定等（ゲーム時間の管理、有害サイトのブロック、課金できない設定等）を有効に活用することがまず大事なことだと思います。また、「子供部屋に持ち込まない」、「ゲーム（ネット）をしない日を決める」などルールを設けることも有効的と考えます。ゲームをしない日には親子で運動する、会話するなど習慣付けることで子どもの問題に気づくこともできると思います。ルールを破った場合も、保護者は感情的にならず子どもと向き合って話し合うことが大切です。
- ・スマホに関わるトラブルやアクシデントは増えてきているでしょうか？  
=>垂井小学校においては、トラブル等の報告は特に受けてはいませんが、今後、使用状況等の把握をし、そういう場合の対策を考えたいと思います。

## 〇イベント「たるいっ子秋まつり」について

- ・とてもたくさんの方が参加されていてすごいなと思いましたが、土日の開催ですか。祭りの宣伝やボランティアの求人はどのように進めていますか。  
=>開催日時は、最終的にPTAと学校側で決定しますが、土曜授業の午後に開催することが多いです。宣伝は、夏休み間にポスターで自動玄関や掲示板等に掲示と児童を通じて書面を全校配布しています。中学生ボランティアは、学校長とPTA会長が中学校へお願いに行きます。
- ・実施には多くの協力が必要になると思いますが、企画から当日までどのくらいの期間で、どのような協力を得て活動されたのでしょうか。  
=>各委員会に、1つイベント（出し物）をお願いしています。7月の運営委員会で各委員会へ依頼し10月にまつりを開催しますので、企画から当日までの期間は3カ月です。各委員会で、企画から実施まで行っていただき、PTA本部はフォローしています。
- ・皆さん楽しんで意見交換などされているのでしょうか。事業計画をどのように作りあげたのか。企画段階で工夫した点やアイデアをどのように出し合ったのかなどを知りたいと思いました。（委員会等で意見を募っても、本校では「前年と同じでいい…」ということが多いです）  
=>運営委員会で意見交換しています。以前は、食事ありのまつりでしたが、2年前より食事なしに変更しました。前年度の反省を生かし、改良させたり変化させたりしています。前年度と同じ内容の委員も多いですが、本部が案を出したり各委員で新しい企画を検討したり、少しでも参加者に楽しんでもらえるようにしています。
- ・費用、準備、片付けなど、かなり大がかりなイベントだと思いますが、どのように運営されているのでしょうか。  
=>予算は、前年度の実績を基に各委員会と調整して決定します。準備・片付けは、各委員会にて責任もって行っていただいています。必要に応じて、PTA本部がフォローしています。
- ・多くの親子が参加されるイベントはうらやましく思います。どうすれば多くの方に参加していただけるのか、参加人数が減らない秘訣があれば教えていただきたいです。  
=>土曜授業の午後に実施する、行き慣れた学校で開催する、宣伝ポスターで楽しさをアピールする、ことで多くの方に参加していただけていると思います。また、翌年も参加したくなるような楽しいイベントとなるように企画しています。
- ・参加児童数から推測すると、卒業生である中学生の参加率が3割以上あるようです。うちわ作りやプラバン工作など楽しい取り組みがあることも大きいでしょうが、中学生の参加率を上げるための工夫として何か良い方法はありますか。  
=>中学生は、主にボランティアとして参加していただきますが、ボランティアの仕事の合間にイベントにも参加して一緒に楽しめるようにしています。

- ・この行事を毎年行うことがPTAとして大きな負担となっていないでしょうか？多くの保護者の理解が必要かと思いますが、理解を得る秘訣を教えてください。  
=>PTAとして負担が大きく大変だと思われる保護者の方も多と思います。PTAの大きなイベントの1つで、子どもたちもとても楽しみにしていますので、大変だがやりがいあり、親子のふれあいとしてのよい機会であると、理解をいただけていると思います。今後は、負担が大きくなるように考えていく必要があると思います。

## ○各委員会の活動について

- ・校内環境整備での役割分担、参加率について教えてください。  
=>垂井小学校には、奉仕作業と校内環境整備があります。奉仕作業は、「福祉委員会」が指揮を執り、行っています。掃除場所は、住んでいる地区ごとに決められ、なるべく偏りがないように毎年変わります。ほとんどのご家庭に参加していただけています。校内環境整備は、運動場の整備（土入れ、土ならし）や側溝掃除を行っております。力仕事となりますので父親の参加が多く参加率は15%ほど（30人ほど）です。
- ・母親委員会では、挨拶運動、読み聞かせ、各研究大会へ参加しているとのことですが、父親でも参加できる委員会なのでしょうか。  
=>父親でも、参加していただける委員会です。委員会の名前が「母親委員会」となっていますので、母親の参加が多いですが、父親が参加して下さるご家庭もあります。それを考慮しますと、委員会の名前の変更も検討が必要だと思います。
- ・福祉委員会の活動について、「雨傘の管理」というのはこういった活動ですか。また、「奉仕活動」は地域への奉仕活動なのか、校内清掃の草むしりのことなのか。  
=>学校には、急な雨などで傘がない子や、忘れてしまった子たちのために、貸し出し用の「雨傘」があります。それらに不備がないかを点検してもらい、修理したり、新しいものと入れ替えたりしています。「奉仕活動」は、学校の掃除を行います。生徒が使う教室（個人の持ち物等があるので）以外の体育館や、特別教室、トイレなどや高所など子どもたちでできない場所を掃除します。
- ・学級委員会の活動にある「防犯ステッカー」や「防犯名札」とはどのようなものか教えてください。  
=>毎年4月に新1年生が入学した際、その児童が長子であった場合に垂井小学校の保護者・ご家庭であることを示す物として、名札やステッカーを作成しお渡ししています。名札は身分証明書のようなもので、首から下げる形になっており、保護者が授業参観や学校行事などで来校される時に携帯をお願いしています。
- ・垂井小校区は狭い路地や入り組んだ道が多い中、車の往来も多いかと思いますが、その中を児童が通学するにあたって、安全のために何か工夫されてみえることはありますか。  
=>各地区にて、交代で、保護者の方が交通当番をしてくださっています。横断歩道などに立っていただき、生徒の登校を見守ってもらっています。交通量の多い横断歩道は、両側に立っていただいています。また、地域の方で、一緒に学校まで

の登校付き添ってくださるボランティアの方もいらっしゃり、大変感謝しております。また、年2回ほど登校班ごとで、「分団児童会」を開き、登下校の注意点などを話し合っています。また、子供会でも、「危険予知」の話し合いをしています。

## ○コミュニティスクールについて

- ・今年度からスタートするというコミュニティスクールは、どのような取り組みをされるのか。また、PTAはどのような関わりを担っているのですか。

⇒今年度、立ち上げは行いましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、実際の活動を進めることはできませんでした。しかし、この感染拡大を受けた学校運営や消毒作業、掃除について相談にのっていただいたり、子どもたちの生活を守るために、町内のさまざまな機関への働き掛けを行っていただいたりする等、常に変更を余儀なくされた本年度の運営に御協力をいただきました。PTAとしては、当年度の会長、PTA顧問という立場の前年度会長が所属をし、保護者の意見として反映できるようにしています。

- ・コミュニティスクールで、何か地域の方々から新たなご意見などありましたか。

⇒本年度より始まったことで、学校経営への参画の立場として、協力していくとの御意見をいただきました。具体的には、新型コロナウイルスに関わる対応について、消毒や清掃への協力していく体制づくりをしたいという御意見をいただきました。

- ・コミュニティスクールの設立についての経緯や、人選での苦労などがあれば教えてください。また、地域学校協働活動とコミュニティスクールの一体的推進に向けてはどのように考え、取り組んでいくのか知りたいです。

⇒児童の成長につながる教育課程を考えたとき、家庭と学校（教職員）だけの力では難しい状況になってきていることから、地域の豊かな人材や力を得ていく必要性が高まったことから、コミュニティスクールを立ち上げていくことになりました。垂井町には2つの中学校区がありますが、一方で先進的（研究的）に実践したことを含めて、本年度より町全体としての取組となりました。人選については、前年度まで行っていた「評議員会」を基に、さらに地域の方々との連携につながるよう、まちづくり協議会の会長などにも参加いただきました。地域学校共同活動については、コミュニティスクールでの活動そのものがそれにあたるとして、今後の推進を進めていきます。

- ・今年度のコロナ禍における活動や、今後について知りたいです。

⇒児童の学習の場を保障し、新型コロナウイルスへの対応で疲弊した教職員を支えるため、校内の消毒・清掃活動への支援をしていただきました。婦人会や子ども見守り隊など、他の組織に学校の現状をお伝えいただき、多方面から援助の声を掛けていただきました。今後については、学校の予算を含め運営に対する御意見をいただいたり、学校行事の協同開催を行ったりしていくことを考えています。

## ○今後のPTA活動について

- ・今年度はコロナ禍で人が集まるようなPTA行事の多くが中止となっていることあるかと思いますが、どのように関わりを維持されているか、工夫されていることがあれば教えていただきたいです。

⇒学校で実施していた家庭教育学級を在宅で可能な教育に変更しました。

- ・今年度はコロナ禍で、たるいっ子秋まつりや校内環境整備など、例年と同じように開催されましたか。もし形を変えて開催されたのなら、どのような方法で開催されましたか。

⇒たるいっ子秋祭りや校内環境整備は、密となり感染リスクが高くなるため、今年度は開催しておりません。形を変えて、在宅家庭教育学級を充実させました。また、PTA総会も開催しておらず、今年度、初めてPTA総会を書面評決とさせていただきます。今まで続けてきたことをきっかけもなく変えることは難しいですが、今年度、コロナ禍がきっかけとなり、前年度までとは違ったPTA総会を行うことができました。PTA総会は、準備も大変ですし、それぞれの家庭状況が以前とは変わってきている中で、参加者も会員の半数に満たなかったのが事実です。今年度の書面評決は、各家庭でゆっくり書面を読むことができ、可否を書面で返信していただくだけなので、簡素化になり良かったという意見をいただきました。PTA総会やその他の活動もスマートになっていくことも大切だと考えさせられました。

- ・PTA活動がとても充実しているように拝聴しましたが、With コロナ時代に突入し、PTA活動も従来通りの事項を見直す変革の時期にきていると思います。このコロナ禍での今後の活動について、どのようにされるのかお聞きしたいです。

⇒コロナ禍で学校行事がほとんどない1年となり、子どもたちには寂しい思いをさせた事もあったと思います。しかし、本当に子どもたちが成長する過程に必要なPTA活動ができているか、考えることができました。来年度どのような環境になるかわかりませんが、先生方・保護者・地域の方と相談しながら、進めていきたいと思っています。

- ・児童数の減少に伴う課題としてPTA活動のスリム化があると思いますが、スリム化について取り組まれてみえる事例があれば教えてください。

⇒PTA活動のスリム化は、垂井小学校でも課題となっておりますが、検討中で実際に取り組んでいることはありません。今年度の本部役員でも引き続き検討する予定です。

- ・各委員会の名称等は以前のままでですか。私の学校では会員が少なくなっており、各委員会をまとめるなどしてコンパクトにしていますが。

⇒各委員会の名称は、以前のままで。幸いにも垂井小学校は、今のところ会員の大きな変動はなく各委員会を維持することができています。ただ、保護者の負担、会員の減少を考えPTA活動のスリム化を検討しています。

- ・今、PTA活動の負担軽減が言われる中、変化や意見など出ていますか。

⇒現在、共働きのご家庭も多くお忙しいご家庭がほとんどで、PTA活動が負担と思われるご家庭もあると思いますし、そのような意見を聞くこともあります。現

状は、大きな問題とはなっていませんが、保護者の負担を考えPTA活動のスリム化を検討していかなければいけないと考えます。

- ・今後のPTA活動への課題となっていることがあれば教えていただきたいです。  
=> PTA活動の負担軽減は課題と考えています。保護者の負担軽減を考えPTA活動のスリム化を検討しています。負担軽減しながらも、行事には多くの方に参加・協力していただけるような環境づくり・工夫お引き続き考えていきたいと思  
います。